

第19回 かたの環境を考える委員会

■第19回委員会概要

- ・日時：平成23年7月4日（月） 18:30～21:30
- ・場所：交野市役所 別館3階中会議室
- ・テーマ：〔課題の設定／企画づくりを学ぶ／プロジェクトを立案する〕

■第18回委員会の進行・内容は以下の通りです。

- ★18:35 交野市環境保全課長より開会の挨拶。
- ★18:36 環境市民事務局長 堀孝弘より挨拶。
- ★18:39 各グループで、課題の設定／企画づくりを学ぶ／プロジェクトの立案
- ★21:14 全体共有

【エネルギー】

- ・あらゆるものすべてを省エネに
- ・まずは、環境学習
- ・そして、地産地消のエネルギー
- ・こうしてまちづくりを進めよう。

【エコ生活】

課題を4点だし、それぞれについて議論した。

- ・ごみを減らそう
- ・自動車に頼らないようにしよう
- ・エコライフをしよう
- ・環境問題を学んで実行しよう

【まちづくり】

交野がめざす“まち”とはどんなものかを考えた後、

- ・それぞれの地域の気質を活かしたまち
- ・自転車で走る道が少ない

などを話した。

【自然環境保全】

- ・山の問題に関する課題を「市民参加型の楽しい山づくり」に決めた後、企画の作り方について学んだ。そして、5つの企画案を考えた。
- ・宿題は、各自で企画案を練り直すこと。



■各グループの記録

★エネルギーグループ

1. 前回の宿題（プロジェクト素案）の確認

各発案者から概要紹介

- ・地元開発の風力発電装置の普及
- ・一気に加速 太陽のまちへ
- ・エネルギーを考える勉強会の開催
- ・省エネ実践大作戦
- ・太陽がいっぱい（太陽はともだち）
- ・自動車を使わないまち
- ・太陽光発電の普及促進
- ・小さなエネルギーのベストミックス
- ・避難所でのエコのまちづくり
- ・エコタウンかたののまちづくり
- ・風の通るまち



2. 提出された宿題の関係を考える

各プロジェクトの概要を記したカードをそれぞれが持ち、プロジェクトごとの関係などを考えた。統合できる可能性のあるもの、関係・関連の深いものなどを考え、各委員から発表した。

※宿題

- ・自転車レンタルなど先進事例、成功事例などを調べる
- ・北河内エコエナジーなどが開発・普及している風力発電機の効果や実績を調べる
- ・「風の通るまち」の具体化に向けて、通風と安全が両立できる窓の工夫を調べる
- ・太陽光発電や太陽熱利用、高効率機器の普及などのプロジェクトが4つ出ているので、それらの良いところを組み合わせた案を考える
- ・環境教育を盛んにするために必要な仕組みを考える。「人材登録制度」など

☆次回は、それぞれのプロジェクトを深めていく。

★エコ生活グループ

1. 課題の設定

【問題】

- (1) ごみが多い
- (2) 自動車に頼った暮らしになっている。
- (3) ライフスタイルがエコライフスタイルになっていない。
- (4) 環境教育の場・学んだことを行動に移す場がない。
- (5) エコ生活がしやすいものの売り方になっていない。
- (6) 大量消費大量生産の意識になっている。

【課題】

- (1) ごみを減らそう
- (2) 自動車に頼らない暮らしをしよう
- (3) エコライフをしよう
- (4) 環境問題を学んで実行しよう

2. 課題の具体化

◇課題 (1) : ごみを減らそう

- ・ 必要なものだけを買うようにする (収納を工夫し、買い過ぎを防ぐ、シェア)
- ・ 買ったものは使い切る、最後まで使う、安易に捨てない
(食べ物の賞味期限と消費期限の違いを知る)
- ・ 使い捨て商品を減らす
- ・ どうしても出たごみは有効に利用しよう
- ・ ごみ処理にかかる費用を知る (年間ひとり 15,000 円)

◇課題 (2) : 自動車に頼らない暮らしをしよう

- ・ 公共交通を利用しよう
- ・ 自転車を使おう
- ・ 歩こう
- ・ 自動車をできる限り/なんとなく使わないようにしよう
- ・ 「あいのり」をしよう
- ・ コミュニティバスを実現させよう
- ・ カーシェアリングをすすめよう

- ・ 自転車、歩行者が通りやすい道をつくろう
(知りたいこと)
- ・ コミュニティバスを走らせようというアイデアどれぐらいあるのか
- ・ (もしアイデアがあったら) なぜ×になったのか
- ・ ゆうゆうバスの現状

※ 補足：この課題については、まちづくりグループと重複している。
他の課題、まちづくりグループとの調整の上、最終的にエコ生活グループでどう判断していくかを考えたい。いずれにしても、エコ生活グループでは「暮らしの側面」から取り扱う。

◇課題 (3) : エコ生活をしよう

- ・ エコなものの売り方、買い方
- ・ ごみを出さない売り方を一緒に考えよう
- ・ 量り売りをしているお店を増やそう
(検討途中)

※宿題

下記3点を知ることにより、3R を実行するためのプロジェクト策定のヒントにする。

- ・ 交野の廃棄物基本計画の内容
- ・ 京都市一般ごみ組成調査
- ・ ごみの日に他の方のごみ袋をちらっとみてる。

エコ生活メンバーはすでに環境に配慮した暮らしをしている人が多いため、そうではない人たちがどんなごみをどれぐらい出しているのかを知る。

☆次回は、課題(3)(4)を具体化し、企画のたて方を学び、廃棄物基本計画を学ぶ。

★まちづくりグループ

1. 前回までの振り返り

前回までの議論を総括し、既に課題となっている3点と未だ問題のまま継続議論中の5点について確認を行った。

◇既に問題から課題におきかえた3点（文調は未調整）

課題（1）：環境を大切に考えた観光をもっと活発にし、環境のまちづくりにつなげていこう。

課題（2）：住民が主体になって乗りたいバスにしてゆく。乗りやすいバスにする。

課題（3）：地域で子どもを育てる環境づくり。

2. ビジョンの設定

残された問題の課題化に先立ち、ブレインストーミングでまちづくりのビジョンを考えた。

<まちづくりビジョン> 交野のめざす姿とは…

・ずっとあるものがあるべき姿のまま50年先、100年先まで残っているまち

・それを誇れる人がたくさん住まうまち

・それぞれの地域の気質・地域柄を大切にし、活かしているまち

・みんなが主体者になり、まちのことを自分たちで考え、解決してゆくまち



3. 残された問題を課題に置き換える

<今回の議論>

・「まちなかの緑、公園」のうち、「子どもが遊ぶ場所、球技できる場所が少ない」と「小さい公園が活かされていない」については課題(3)に含めて考える。

・「まちのシンボルが明確でない、交野サイズになっていない」については環境のまちづくりとしてのアプローチが難しいため、問題として取り上げないこととする。

◇課題に置き換えた問題

（問題）自転車で安全に走れる道が非常に少ない

⇒（課題）誰もが自転車で走りやすく、歩きやすい道づくり、みんなが自分のこととして考え解決してゆく。：課題（4）

◇継続議論が必要な問題

- ・まちなかの緑、公園：年配の方が過ごせる公園がない、各住宅地の公園が少ない、公園のメンテナンスが不十分、街路樹（緑）が少ない
- ・マナーがない、道路にポイ捨てごみが多い
- ・安心 安全：街が暗い。車上荒らし増加、変質者が多い。実生活に即した防災対策ができていない。

☆次回は、課題の設定の続きと、企画作りを学び、プロジェクトを考える。

★自然環境保全グループ

1. 山に関する問題についての課題の設定

里山保全ボランティア活動について意見交換をした。楽しみが続きにくいことや、メンバーの固定化、ボランティアの気まぐれな性質などについて意見が出、社協・市・ボランティアの連携が必要であること、また誰でも参加しやすい仕組みが必要と話し合った。

（結論） 課題：市民参加型の楽しい山づくり

2. 企画の作り方の説明

環境市民より

企画とは何か、どのように作るか、要件は何か、ポイント等について説明。

3. 企画づくり実習

各自どんなことをしたいかを個人で考えた後、グループ内で発表して意見交換をした。

5人の出席者から5つのプロジェクト案が出た。

◇里山の保全活動

ビジョン：里山の保全活動

主体：市民、ボランティア団体、行政（農とみどり課）

目的：生物多様性の保全 / 山遊び・ハイキングができる山づくり

効果：市民の協力が得られる

内容：生物多様性を調査する。各ボランティア団体と話し合い、各方面の市場活動を行い、できることから入っていく

◇水量の豊かな河川を取り戻す

ビジョン：水量の豊かな河川を取り戻す

目的：多種多様な在来の植物・生物が広範囲で生息・育つことができる環境をつくる

主体：市民、行政（道路河川課、地元水利組合）

内容：山の保水力を高める、三面張りの透水性のある川にする、アスファルトを透水性舗装にする（専門家にヒアリング、先進調査）

※既存のボランティア団体を尊重する。でも人間の論理だけで進めない。

◇かたの生物調べ隊

ビジョン：生物が多様な山・川

活動名：かたの生物調べ隊

目的：生物の把握により自然の大切さを再確認する

効果：調査を通じた自然とのふれあいと、調査結果を生物多様性保全の検討材料にする

主体・対象：市民

内容：既存の調査内容の把握、指導者選出と調査員募集、時間・場所・方法・まとめ方などの勉強会

◇山に親しむ

ビジョン：山に親しむ

内容：学校のカリキュラムに交野の山の活用を働きかける。小1から中3まで継続した取組として実施

目的：幼い頃から山を身近にする、森林整備の担い手を増やす。

効果：教育力効果

主体：市民、行政（教育委員会、農とみどり課）

◇竹やぶに住み場所を！

ビジョン：生物多様性が保たれている

名前：竹やぶに住み場所を！

目的：増えつつある生息地を抑え、竹の生息地を固定する。

竹と木々のバランスのとれた山をつくる

主体：地主、ボランティア、行政

内容：交野の山里の竹やぶの地図をつくる（写真で）。竹やぶの広がりの状態を制御できるか見極める。既設のグループとの調整。年度ごとに制御できる方策を施策。竹の生態や特性を知る

効果：竹に浸食されない緑あふれる里山の実現

※宿題

企画のステップを踏まえ、各自で「内容」の部分をふくらませる
一週間後までにシートを環境市民へ提出のこと

☆次回は、それぞれのプロジェクトの内容を深めていく。

以 上